

ねりま区報

➡ 1/21 令和7年 (2025年)

第2068号 毎月1日・11日・21日発行

発行/練馬区 編集/広聴広報課
〒176-8501 豊玉北6-12-1
☎3993-1111(代表) FAX 3993-1194
https://www.city.nerima.tokyo.jp/

第一回区議会定例会を開催

▶日程(予定):2月6日(木)~3月14日(金)
※会議の日程や傍聴については、区ホームページをご覧ください。
▶問合せ:議会事務局 ☎5984-4732

第37回

ねりま漬物物産展

2/7(金)・8(土) 10:00~19:00
ココネリ3階

練馬大根を塩と米ぬかで漬け込んだ「ねりま本干沢庵」のほか、べったら漬け、奈良漬け、はりはり漬けなど、さまざまな漬物を販売します。
※なくなり次第終了。



ねり漬.com

問合せ

練馬漬物事業組合(株)雅香岡田内)
☎3995-6601 FAX 3995-6068
中小企業振興係 ☎5984-1483



▶交通:練馬駅下車中央北口徒歩1分



ねりま本干沢庵
1本650円!

練馬大根のたくあんは楽しみ方いろいろ!



たくあん和白ご飯



たくあん入りポテトサラダ



たくあんのクリームチーズあえ

たくあん入り

台湾風卵焼き



詳しくは2面へ

留学中の若い日、ヨーロッパの古い小都市を訪ねると、街の中心には必ず、教会、議会と並んで、美術館がありました。美術館は、市民の日常生活に溶け込んでおり、贅沢施設ではなかったのです。同じ時代、日本の江戸では、浮世絵が蕎麦一杯の値段で広く庶民に流通していました。生活者が日常的に、ゴッホやマネを魅惑した名画に接していたのです。人間は、生きる意味、この世界の意味を問い掛けずにはいられない存在です。美術は、音楽や文学とともに、重要な啓示を与えてくれます。

今、練馬区ならではの新しい美術館の実現に取り組んでいます。平田晃久さんの斬新な建物設計案が大きな注目を集め、パネル展とNHKの放送には、若者を中心に想定以上の大きな反響がありました。現美術館の歴代館長と学芸員の皆さんは、あしたのジョー展、シスレー展、舟越保武展など数々の独創的な企画展を開催し、高い評価を得てきました。その実力が十二分に発揮され、老若男女誰もが楽しめる新美術館にしたいと思います。

美術館は、巨大な国立、都立があれば用が足りるわけではありません。区立の美術館は、住民の皆さんと一体で地域文化の核となるものです。練馬区は、中村橋のまちと一体の美術館を目指します。練馬区政は、改革ねりまが功を奏して、新たな段階に入りつつあります。この10年の決算を比較すると、歳出増加約900億円のうち約8割が福祉、教育、子ども施策です。基金も大きく積み増し、健全な財政運営を堅持しています。

これまで全力で取り組んできた福祉医療や都市インフラという安心の基盤を更に充実しながら、文化、スポーツ、みどりなどの施策に積極的に取り組んでいきたい。その先頭を切るのが新美術館です。

練馬区長 前川 耀男



5階の窓から